花のまちづくり情報

花はな通信

Vol.5

「おばあちゃんの庭」は、私の原風景。そこには庭づくりの原点があるように思えます。

土谷　美紀
西島松在住／フラワーマスター

家業の花つくりを継いでいるので、さぞ昔から花好きで興味もあったのでしょうといわれることがありますが、自分の中ではそれほどでもなく、熱心に花つくりの手伝いをしたほうでもありませんでした。しかし、今になって、お客様の庭のことを考えたり、花選びをしたり、また花のまちづくりのお手伝いをさせていただいたりしながら、私の花に対する考えの基本は、幼いときの環境にあったと思えるようになりました。

そのひとつは、一面ジャガイモや麦畑、荷台から眺める未舗装の道路、そして春の風を遮るまだ背の低い防風林です。それらは、私の原風景で、心に残されています。もうひとつは、「おばあちゃんの庭」です。家の周りは、祖母のテリトリーになっていて、それは雑多な庭といえるものでした。今はやりのイングリッシュ・ガーデン風なものではもちろんなく、かといって日本庭園にはほど遠いもので、デザイン性とは縁がない魔法の庭でした。しかし、花は、仏様に供えるため一年中咲くように植えられていて、茶の間から見える一等席には石楠花が陣どり、見事な山ツツジがその脇をかためていました。孫のおやつにイチゴを植え、ナシの木はたわわに実をならし、その後ろにはスモモの木があって、その実は食べ放題、夢中で口いっぱいほおばって食べたものです。祖母は、珍しい品種を集めるのも趣味で、セダムなどを石に植え、小さなロック・ガーデンもつくってもいました。庭のどこに、いつ、どんな花が咲くのかを知っている祖母は、私にはまるで魔法使いのように思えたものです。

数年前、家をもったのを機に、自分の庭をつくろうと思い、カッコいいプランを絵に描いてみました。でも、あまりしっくりいかず2年あまりも手付かずにしていました。今思うと、誰が見てもステキな庭をつくろうと気張りすぎたのでしょう。商店街や公園など公共的なスペースは、やはりカッコをつけるべきだと思います。しかし、自分の庭は、住み手のぬくもりや味わいがないと、心のかよわない庭になってしまうことがわかりました。それから、私の庭は、だんだん「おばあちゃんの庭」が目標になってきているように思っています。

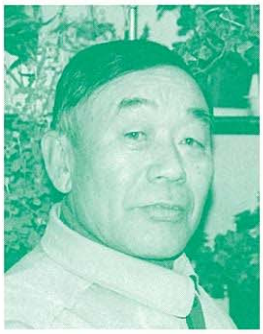
第12回恵庭花とくらし展
ニュージーランドからティマル市長も参加されました。

花の講演会

とき　平成14年3月16日（土）午後1時30分
ところ　恵庭リサーチ・ビジネスパーク
視聴覚室（3階）恵み野北3丁目1-1

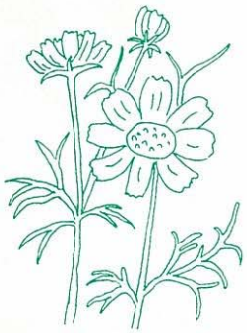
講師　雑誌「BISES」編集長　八木波奈子氏
演題　「花と暮らす美しい街の住人たち」
入場　無料（先着100名に花の種プレゼント）

自然がおりなす柔らかさと木のぬくもりをもつガーデニング



佐藤　忠雄さん

夏になると、花で飾られる漁町商店街遊ingロード。その一角に、波のようにあふれんばかりの紫紅色をしたサフィニアの花を中心に多くの花が咲き誇っている佐藤忠雄さんの店舗（恵庭売炭）の庭があります。佐藤さんのガーデニングは、自然がおりなす柔らかさと木のぬくもりをもち、その斬新さが高い評価を受け、また多くの人の目を楽しませてくれています。佐藤さんに、ガーデニングによせる思いをうかがいました。



私のガーデニングは、あくまでも自然体でやっています。花苗や土づくり、さらにポットもすべて自分の手づくりです。だから、手間ひまは非常にかかりますが、それほどお金というのはかかっていません。しかし、私には、すべて自分の手でやってみることが、本当に花とかかわる楽しみな時間の過ごし方なのです。

私は、若い時に学校で農業を学び、植物を育てることや土づくりは、よく知っていましたし、営林署で仕事をしたこともあるので、山や樹木のことはいつも身近なものでした。そうした素地の中で、いまの私のガーデニングがあります。

ガーデニングは、お金をかければ、確かにいいものができるのかもしれません。しかし、自然にあるもの、たとえば木の根や流木、ツタやツルのようなものですね、それに廃材も含んでいるのですが、そうしたものを利用して、花のポットをつくっています。私は、さらにそれを立体的にし、かつ花がいきいき見えるように工夫をこらして、コンテナ・ガーデンの下地にしています。また不要になった米ぬかやおがくず、落ち葉なんかも利用して堆肥をつくり、それを土に混ぜて使っています。花も、ほとんど種から苗を育て、それを増やしています。いま育ててもっている花は、50種くらいにもなりますが、こうした花々が今か今かと花を咲かす出番を待っています。私のガーデニングは、育てた花々のための舞台をつくり、そこに花が色とりどりに咲いてもらうことですね。今年も、無理はせずに、昨年よりは花を美しく咲かせたいと願っています。

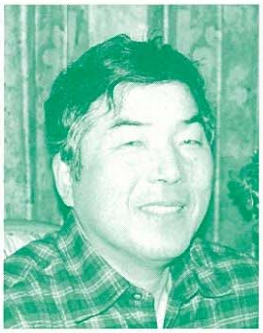
＊佐藤忠雄さんの店舗（恵庭売炭）の花庭は、昨年第11回全国花のまちづくりコンクール企業部門で三つ花最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞されました。また第4回全国ガーデニングコンテスト2001においても入選をはたされました。

ガーデン・トピックス

「ふるさとづくり賞」受賞

恵み野花のまちづくり団体連合（代表　若濱五郎さん）は、恵み野における花の取り組みが評価され、財団あしたの日本を創る協会主催による平成13年度「ふるさとづくり賞」を受賞しました。連合の皆様は、副賞を使って、恵庭バイパス恵み野入口に「花の街恵み野」のステキな看板を設置しました。注意してご覧ください。

フラワーマスターになって



掛水　博さん

フラワーマスターは、北海道知事から認定された、地域における花のまちづくりの指導者です。掛水博さん（緑・花文化の知識1級認定者；島松本町）は、平成13年度のフラワーマスターの認定を受け、これから恵庭の花のまちづくりに積極的な関わりをもっていただけることが期待されています。今回その抱負について聞きました。

いま自宅に隣接して手づくりの温室があります。その中には、私の好きな椿やサザンカをはじめ多くの花の苗が育っています。仕事を終えた後、私は、いつもこの中で長い時間を過ごすのが日課で、多くの植物と触れているとやすらぎをおぼえます。

自宅の前には、また自前の花壇があり、ここに毎年温室で育てた花を咲かせています。5月中旬のチューリップからヒヤシンスへと続き、多種多様な花を季節をおいながら咲かせるのが楽しみです。

こうした私の園芸活動歴は、もう30年にも及びますが、今回縁があって新たにフラワーマスターに加えていただきました。いままでも、私の花壇を見にきていただき、請われる方には、花の育て方をアドバイスしたり、育てた花を差し上げたりしていましたが、これからも私にできることがあれば、花や緑の町医者のような感覚で「植物の生かし方」を多くの方に伝えることができればと思っています。

ハンギング・バスケットを飾ってみませんか

花とくらし展プチハンギング・バスケット講習会で講師をしていただいた渡辺恵里香さん（西島松）にハンギング・バスケットのつくり方を教えていただきました。

ハンギング・バスケットは、つるしたり、掛けたり、花と緑を立体的に楽しむことができます。初心者でも、簡単に植え込みができる「スリット・タイプ」のつくり方を紹介しますので、是非皆様も試してみてください。

1. バスケットを用意し、スポンジをスリット（切れ込み）の内側から貼り付けます。
2. 容器底の水抜き穴が隠れるまで、火山レキを入れます。
3. 培養土を深さ３cmほど入れます。
4. 花苗をスリット（切れ込み）の間から正面に向け垂直に差し込んで植え込みます。
5. 下部の花苗を差し込んだら、培養土をたします。
6. 上部を同様に植え込みます。
7. 水で湿らせた水ゴケを約2cmの厚さでのせ、株と株の間にしきつめます。
8. 水差しで、株元に下からしたたるくらい水を与えます。

渡辺　恵里香さん

〈チェックポイント〉

このようにハンギング・バスケットで植え込むと、花苗の根がダメージを受けているので、1週間から10日間くらい半ひかげの、風のあたらない場所で養生させてから、好みの場所にかけて飾ってください。

恵庭フラワーガーデニング・コンテストに多くの花で彩られた個性的な庭がエントリー

今回初めて恵庭フラワーガーデニング・コンテスト「花風人」を3部門（個人・ストリート・企業工場）を設けて実施しました。応募は個人部門のみとなり、14件のエントリーを受け、審査（平成13年8月8日）の結果、村松恵美子さん（相生町248）が「花風人」グランプリを受賞されました。村松さんに、受賞後ご自身のガーデニングへの思いをお聞きしました。

村松　恵美子さん

最初の恵庭フラワーガーデニング・コンテストに、わたくしの庭が「花風人」グランプリに受賞するなんて思いもよりませんでしたので、評価をいただいたことそれ自体本当に嬉しく思っています。

わたくしの花との関わりは長く、ガーデニングはもう日常の暮らしと切り離せないものになっています。いまは花がいつも自分のまわりになければ、安心できないような感じかしら。花が咲いている環境の中で、家族が語らいのひと時をもてることに、わたくしは充実感を覚えています。

わたくしの庭は、宿根草を多く植えています。宿根草は、春になると、長い冬を耐えて芽吹きはじめますので、わたくしはそうした時期も、気持ちが勇気づけられる気がして、花を育てることに喜びをおぼえます。わたくしのガーデニングは、ですから、宿根草と一年草をいろいろ組み合わせ、相性を試しながら、立体的なバランスづくりが基本になっています。

恵庭は、花のまちと言われるようになりましたが、これからも多くの方が花づくりやガーデニングに興味をもたれて、それが恵庭全体の環境のよさにつながっていくといいですね。

第１回恵庭フラワーガーデニング・コンテスト

「花風人（はなかざひと）」審査結果

個人ガーデン部門

花風人（はなかざひと）グランプリ	村松恵美子さん	（相生町）
花風人賞	田端　敏幸さん	（恵み野）
花風人賞	福島　賢二さん	（黄金北）
花風人賞	水正　幸江さん	（島松本町）

今回は、個人ガーデン部門のみ14件のエントリーとなりました。今年も多くのご応募を期待し、皆様のお庭を拝見できることを楽しみにしています。

パンアートがつくりだす花々の世界

パンアートの魅力

初回の花とくらし展から毎回展示と講習で参加していただいているパンアート。身近な花々をはじめ、本物そっくりにつくりだすアートの世界は、多くの人を魅了しています。パンアートの指導とその創作に情熱をかたむけられている常田千恵子さん（恵み野）に、お話をうかがいました。

パンアートの材料となっているのは、だれでも知っている食パンです。しかし、これが作品になりますと、ほとんどの方は、その素材がわかりません。いつも、これは何でできているのですかと聞かれますが、食パンなのですよ、と言いますと、どなたもその意外性に驚かれます。それも、パンアートのひとつの魅力かもしれません。

常田　千恵子さん

これまで、花とくらし展をはじめ多くの展示会や創作活動を通じて、地域の方々と交流の機会をもたせていただいていますが、それは、私自身の学習につながり、心を豊にしてくれますので、生きがいにもなっています。現在は、食パンだけでなく樹脂粘土も使い、もっと精巧な作品づくりをしたり、パン画という立体的な絵画も創作しています。しかし、パンアートは、どなたにでも創り出せる世界ですので、ぜひご自分の作品を作ってみてください。

■発行■
恵庭・花のまちづくり推進会議
北海道恵庭市京町1番地
恵庭市花と緑の課内
TEL(0123)33-3131　FAX(0123)33-3175
発行日：平成14年3月1日

▶とじて保管しましょう。

※この「花・はな通信」は再生紙を使用しています。